

紙

田
松
敏

310

No.

(14)

(第)

(16)

(1)

演習第三号

昭和十八年五月十日

統
監
部
記

内閣會議會議長
川口

詢問
答申
二
開
スル
件

第二總機
演習統制
ヲ以テ
決
以
同
件
別
紙
一
通
す

答申
ス

總力戰研究所

011

No. _____

別紙

一、應災者対策

人食糧其他生活物資

(1) 町会隣組等単位による非常委員会

(2) 非常用食糧迅速配給

(3) 救急物資の應急的配給

(4) 配給系統混乱防止措置

二、負傷者救護

(1) 救急隊救護地区より医師一應急救需要を迅速に受け取り

応援

(2) 医薬品供給

總力戰研究所

二、 復旧対策

(1) 臨時救護費、増設

3. 罹災者、救済

(1) 住宅被害、罹災者の調査、罹災者の救済、罹災者の救済、罹災者の救済

要するに、近頃、家屋、罹災者の救済

(2) 防空設備、及、防空、及、防空、及、防空、及、防空、及、防空

(3) 特別列車、運送

(3) 疎開、及、疎開、及、疎開、及、疎開、及、疎開、及、疎開

4. 罹災者、救済、及、救済、及、救済、及、救済、及、救済

(4) 生活資金、取得、及、取得、及、取得、及、取得、及、取得

總力戰研究所

1. 交通機関通信施設、急遽復旧

2. 工場等復旧、為治具材、特別優先配当

3. 救急基地、急遽整備

4. 練中計画、市廳中心被災基地、速急再建整備

5. 工場等三対応中心被災復旧、資源融通、高層措置

6. 治安対策

1. 混乱動搖、糧食、住心戒厳、考慮

2. 治安維持、非常決断、強行

3. 治安維持、非常決断、強行

4. 治安維持、非常決断、強行

5. 治安維持、非常決断、強行

總力戰研究所

(16)

受領
本日二
抄

陸内様第二號

昭和十八年十一月四日

(17)

内閣審議會會長宛

内閣總理大臣

左ニ就キ、内閣審議會ノ意見ヲ控メ

軍需生産増強ニ資スル中、企業體制ノ
確立方策如何

漢 二番 二号

昭和十八年十一月九日

總理大臣 宛

内閣審議會長

詰問答申 - 閣下件

漢内 漢 二番 三番 詰問アリタル件 別紙
通答申 - 又

別紙

軍需の生産増強に資するべき企業体制の
確立方策

一、航空機、其他重要兵器工業の「国有國營」トス
戦争ノ機動性ニ應ジ決戦兵器ハ、生産力急速
増強は亦中々担ヒトス「兵器」ノ改変機種、改変
等ニ昂ニ應ズル生産ノ急転換

但し経済界全般ノ影響甚大、顧慮ニ差ナリ航
空機其他重要兵器工業ノ範圍ニ限定ス

二、其他重要兵器生産事業（鑛山、化学）ニ付
テハ「國家扶助」トス

往々是上ノ責任ハ國家全面負擔、資本ノ生産ニ對
スル束縛ヲ徹底的ニ解放シ「軍需會社」法ノ不徹底
是正）生産力ノ機動性能率ヲ發揮シテ且途トス

三、右事業事業ニ直接ナル關係事業ニ付テハ其ノ
 要ニ急度ニ應ジ順次ニ公定ノ制ニ變シテ採用ス
 曰家カ必要ト認レル子事業ニ付適宜ノ人ヲ選シ後
 立セシメ固定資本ノ國家ヨリ貸付シ流動資本
 亦ハ公定ノ金金融機關ヨリ融通セシム
 剩餘金ハノ分即ニ付テハ一定額控除ノ上
 此内勤務者ニ分配セシムル如キ勤勞力本位ノ
 構成トシ勤勞力者ノ熱心意ト創進意ヲ奨励ス
 度ニ支持セシム

四、其他ノ軍需物品ノ事業ニ付テハ軍需會社法ヲ擴大
 強化ス

五、公定ノ色彩ヲ濃厚ナル他ノ一般事業業ハ其各團體
 儼トス

情
況





統監部

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青、大本官、田園

報告又ハ
通知先

統監部、武力戦、外交戦
思想戦、經濟戦、審判部

發令者

統監部

交付時機 (想定) 昭和十八年十一月八日
(實曆) 月 日 午前午後 時 分

戰審判部

外交戰審判部

第一動、青國情況第一

一、敵潛、活動漸増、東亞海面ニ在ル敵潛三〇隻以上ト推定

サレアリ 我商船損害共十一月計 二十四万吨

十一月月上旬在支敵空軍大半撃墜

三、リスボン電 十一月二十二日

日独防共協定ハ日本側ニ於テ破棄ノ意思志アリト宣傳シツアリ

四、リスボン電、十一月月上旬米國「ポーツマス」ニ於テ金日談セリ

五、獨、通商破壊戦果

十一月合計 九十万噸

經濟戰審判部

總力戰研究所

470



第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主月國大本名内因

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
審判部

發令者

統監部
戰審判部

交付時機
(想定)
(實曆)

昭和十八年十一月八日
午前午後 時 分

第一勅 主月國情況第一追加

六十二月八日、記念日、行事ハ大成功ニシテ國民ノ士氣揚レリ

七、高級料理店待合等、閉鎖ニ關シ業者ハ觀念シ、一般ハ
歡迎シ、ハヤリ又一部人士ハ凡紙素乱ヲ懸念スルハアリ

(印)

總力戰研究所

520

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青島大本営内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戦、外交戦、
思想戦、經濟戦、審判部

交付時機
(想定)

昭和十八年十一月八日午前十一時十分

日

發令者

統 監 部

戰 審 判 部

第一勁 青島國情況第一追加其ノ三

九、赤國ハ大東亞會議ニ関シ、如キ逆放送ヲ行ヒツ、アリ

イ、何故ビフンハ大東亞會議ニ出席ヲ拒ミセルカ

ロ、大東亞會議ニ回數徒ラヘシ、然ルコト、アウトスト

一〇、リスボン電 十二月十五日

二國會議ニ関スルモトシテ、其ノ當局ニテ明ク避ケアズ、主トシテ

歐洲戰況ニ関スルモトシテ、其ノ論界ニ推測成スナリ

(統)

321
第

(10)

五

大日本帝國政府

一九一〇

文部省關係

(國定規格B5二六×三三毫米)

徵兵年齡切下ケ、學徒動員ニ伴フ、學制改革ノ内容

不明確ニシテ、父兄及一部學生間ニ不安增大シツ、

アリ。

右ニ伴ヒ、有識者間ニ學校教育ト軍務トノ關係ニ

就テ根本的ト革新ヲ要望スル向アリ。

機密

統監部

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青木 大 中 少 佐 内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戦、外交戦
思想戦、經濟戦、審判部

發令者

統監部
戦審判部

交付時
(想定)
(實曆)

昭和十八年 十一月 五日
午後十一時四五分

第一動、五月國情況第一追加其ノ由

十一月十二日在G敵空軍ノビルカ、泰空襲報相當熾烈

泰緬鐵道破壞、復旧ニ十日ヲ要シタリ

一、バンコク及夜電所破壊ニ市民動搖甚クシク日本ノ之ガ復

旧援助ノ緩慢ヲ非難シワ、アリ

一、待合室給料理在閉鎖ニ伴フ客業者二十萬ノ轉業ニ周

シテ、何レモ軍需工場ノ要ロルニ充當セラル、ヲ

者ニ相當ノ労働様ヲ與ヘワ、アリ

現實ニ軍需工場ニ轉業セシメ得ル人員男五萬女子

十萬ト推定セラル

(續)

總力戰研究所

武力戰審判部

外交戰審判部

思想戰審判部

經濟戰審判部

022

一、日獨交渉

交渉の結果判明セル獨側意向左ノ通

米英ノ歐洲大陸進攻ニ備フル為從來ノ對蘇戰

第一主義我々修正セルモ今尚英米軍力ノ

損シ難而後蘇軍ノ保有セル攻撃力ヲ破壊シ有

利ニ戰局ヲ収ル確信ヲ失ハズ

破壊ニ有

二、日蘇交渉

(一) 結果判明セル獨側意向左ノ通

原則上

北滿大利權ノ本件ハ日蘇間ニ解決済、問題ニシテ

要是ニ日本ノ約束履行ノ問題ナリ他案件トハ關聯セ

ズルニ絶対反対

口 獨側意向問題ニ年々日本條約未滿ハ成立セシメタル意向

(二) 不可侵條約ノ締結

日蘇間條約ハ中ニ條約ニ條約ニ條約第一條ニ注意)ノ基礎ニ

調製セルベシ 海軍防備ノ相互制限ニハ蘇側モ興味ヲ有ス日

本側ノ復業ヲ期ス

總力戰研究所

925

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主日國大本部内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
外交戰
審判部

交付
時機
(想定)
(實曆)

昭和十年年下月五日
十一月八日午後一時三十分

發令者

統監部
戰審判部

第一勅書日國情況第一追加其ノ六

一五、政府ノ羽翼壯中心ノ國民組織強化方面ニ對シ

議會員集ヲ授ヘリ羽翼政方面ニ於テ經濟學方面

ト運輸ニ對シ政府ニ對シ「ヤカラセ」的策ヲ勅

アリ

(印)

八十五

(10)

(11) 五

共榮圈方策（即一九一〇至三月）

大東亞省關係
外務省

日華同盟條約ノ推進ニ伴ヒ現地邦人間ニ
 將來ノ地位ノ不安定ノ憂ヒ動搖色アリ他方
 支那要人及民衆ノ側ニ於テハ蒙疆、北支、
 特殊地域ノ急遽撤廢及重要資源開發
 現方式ノ訂正ヲ要望スル聲高ク、
 府ノ又新ノ待望シアリ

一解ニ日本政

(11)

(12)

五

日蘇交渉

外交戦關係情勢

(1919、10至3月)

如

交渉の結果判明セル蘇側意向左、通

北樺太利権解消ハ飽迄無条件タルハ、他案

件ハ胡聊セルニ同意セズ蘇側ハ日本代表ト利権

解消ニ必然随伴スル問題(日本側施設ニ対スル

補償、引渡方法等)ハ、ソラ討議スルハ、利権解

消ニ対スル蘇側代償ニ付テハ、数年前(1911年)

五石トン、五年間)ニモ拘束セラレズ

220

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主月國大本官、口國

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
外交戰
審判部

發令者

統監部

交付時機
(想定) 昭和十九年二月三日
(實曆) 十一月八日午前一時四十分

戰審判部

第一勅主月國情況 第二

一、英米ハ一月一日印度獨立承認ヲ予告スルト共ニ、カルクワタレ

ニ於テ、ビルマ解放委員會成立シテ發表セリ

二、日華同盟條約ノ推進ニ伴ヒ、現地邦人間ニ自己ノ

將來ノ地位ノ不安定ヲ憂ヒ、動搖ノ色アリ他方支那要人及

民衆側ニ於テ、蒙疆、北支等ノ特殊地域、急遽撤廢及シテ

要地監視ノ現在、同發方式、訂正ヲ要望スル声高ク一般ニ

日本政府ノ態度斷リ待望ニアリ

三、外交戰審判部

交渉ノ結果判明セルニ蘇州意向右ノ通

機密

統監部

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

報告又ハ
通知先

統監部、武力戦
思想戦 經濟戦 外交戦
審判部

發令者

統監部

戰審判部

交付(想定) 昭和十一年 月 日
時機(實曆) 日午後 時 分

外交戰審判部

思想戰審判部

經濟戰審判部

「此種有利權解消、範圍を無條件とする」他、案件、
ト國聯にシムルニ同意せず、蘇俄測、日本代表に利權解消
ニ必要隨伴する問題(日本測施設ニ對スル神償、利
權方法等)ニ討論スル、利權解消ニ對スル
ソ蘇俄代償ニ付テモ數年前(中立條約成立前)
ノ提案(一年、五年間)ニモ拘束セラズ

(續)

總力戰研究所

231

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

報告又ハ
通知先

統 監 部、
武 力 戰
思 想 戰
經 濟 戰
審 判 部

發 令 者

統

監

戰 審 判 部

交 付
時 機
(實 曆)

昭 和 十 年 一 月 日
月 日 午 後 前 時 分

戰艦二、航母三、巡洋艦五、輸送船二〇、擊沈
飛行機約二〇〇機、擊隊士

三、青島、糧食

巡洋艦二、驅逐艦四、飛行機七〇、ヲ失フ

「アンダマン」飛行場一ヶ月間使用不能

五、二月八日「アキバ」方面ニ封鎖、英印軍約二萬編支

一面ニ封鎖、英海軍約十萬束突、青島、之ヲ反

撃ヲ圧迫ナリ

(印)

332

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青田大士等内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
外交戰
審判部

發令者

統監部

交付時機
(想定) 昭和十九年一月三日
(實曆) 十一月八日午前二時二十分

第一動 主日國情況、第二追加其ニ

六、外交戰情況

對重慶之工作

汪院長、於三月十日、向ヲ打診、此等結果、其將ニ、
三月十日、トコロ、對日之協、之思、ナキ、ト、判明セル、ヒ、
通報アリ

(シ)

333

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先 (演習官職) 青月団大本営内閣

報告又ハ先 統監部、武力戦 外交戦 思想戦 經濟戦 審判部

交付時機 (想定) 昭和十九年十一月 十日 午前四時三十分 (實曆)

發令者

統監部 戰審判部

第一動 青月団本情況 第二追加 其ノ三

七十九年三月末ニ於ケル大東亞戰況

(一) ニエーギニヤ、ソロモン群島

(二) フーゲンビル島 赤軍増勢ニ主眼點、北部及東南部ニ一圧迫セラルルニヨリ

(三) 赤軍ハ、フイレンバーフェン、北方、カニサレラニ鎮、尙迄暫キニ三月軍ニマダンレ東方ニ集結スルノ上ニナキ情況ナリ

(四) フーゲンビル島ニ對スルアンタマン方面

ハ、フーゲンビル島ニ對スル進攻ニ海濱ニ至ルニ漸時後退シ、ソ、アリ

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

報告又ハ
通知先

統 監 部、 武 力 戦 審 判 部
思 想 戦 經 濟 戦 外 交 部

交 付 時 機
(想 定)
(實 曆)

昭 和 十 年 月 日
日 午 後 前 時 分

發 令 者

統 監 部

戰 審 判 部

(ロ) アンガマンヨ方面

「ニコバル」ノ赤軍ノ概々全滅

「カーニコバル」ニ赤軍依然占據アリ

アンガマンヨ戦事続行中

(三) 十一月以降三月迄ノ損害

飛行機 一、〇〇〇機 赤 三、〇〇〇機

戦艦 五〇万屯 二五万屯

砲台 五〇万屯 二一〇万屯

總力戦研究所

3

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

通 報 告 知 又 先	統 監 部、 武 力 戰 經 濟 戰 外 交 戰 審 判 部	發 令 者	交 付 時 機 (實 曆)	交 付 (想 定)
		統 監 部	昭 和 十 年	日 午 前 後 時 分

八十九年三月末ノ歐洲情勢

(一) 獨蘇戰線依然ノ蘇軍ノ攻勢ノ衰ハズ 戰線ハ三月下旬頃迄ニフシンスクニ東方ノキエフニ西方ノオデッサニ果シカニ線ニ變動セルニ爾後大志變化ヲ見ズククリニヤレ島ハ三月下旬迄ニフセバストホレ此ノ要塞ニ附近ヲ除キサ蘇軍ニ此ノ領セル

獨大本軍ノ攻勢表ニ依リテ高子作戦ニ於ケルサ蘇軍ノ損害ノ概數人員戰死傷一ニ〇万俘虜三〇万

飛行機戰車各約三〇〇〇ヤリ

(二) 伊方利戰線

總力戰研究所

226

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
外交部
審判部

發令者

統監部

交付
時機
(實曆) (想定)
昭和十一年
月 日
午前 午後
時 分

十一月以降大志進展ヲ見ズ

(三) 德國のニ對スル宣戰後

依然繼續セラルシテ其ノ爆撃目標ハ主トシテ

工業地帯 鐵道 石油工場ニ指向セラルルニ如ク看

取セラル

(四) 他ノ戰況大ナル變化ナキモ英國側ハ西亞ト

方面ニ對シテ何等カ之進軍ニシテハ如何ニ判断セラル

(五) 十月五日ノ三時 獨軍機ニ關スル詳細表

人員戰死約五、〇〇〇 戰傷病及行方不明俘虜等ノ合計一五、〇〇〇

戰車約八、〇〇〇 飛行機約五、〇〇〇

總力戰研究所

207

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主月國大本之、四國

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰 經濟戰 外交部
審判部

發
令
者

統

監

戰・審判部

交 付
時 機

(想定) 昭和十九年十一月九日
(實曆) 十一月九日午前九時〇分

第一動主月國情況第二追加景面

九政府ノ内政的施策ニ付テハ大体行政ノ教運燃點ノ

決戰化ノ策及テ子集方面ノ徹底的整理等ノ果斷ナル

措置ニ依リ一般ニ收斂シタルニ、戰局ノ推移ト共ニ國民

ニ種出壯感ニ打テレ國民ノ一部ニ、戰局ノ前途

ニ對シ不安ヲ感念者アリ

一、議會ノ習性問題等ニ關聯シテ相當ノ策動アリ

若干ノ波瀾ヲ見タルニ、政府ノ毅然タル態度及テ會期ニ

豫定ヲ若干長引キレモ提出法律案並ニ豫算作業

ハ通過セリ

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

通報告又ハ先	統 監 部、 思 想 戰 經 濟 戰 審 判 部	發 令 者	交 付 先	時 機	交 付 (想 定)
			(演習官職)	(實 曆)	昭 和 十 年 月 日
			統 監 部	日 午 後 前	時 分

一、防空資料、整備、倉庫材、配給、田畑ヲ欠キ、所期ノ如キ
 整備ヲ見ズ

二、都市人口疎開、政府ノ措置ニ拘ハラズ、該業者ノ多ク、都市
 二職ヲ有シ、或ハ疎開スルコトニ因リ、生活不安或ハ縁故者

無キ等、理由ニ依リ、疎開ヲ實施セルモノカシ
 工場、学校、官衙等、移轉ス、適道ナル敷地、住宅

得ルコト、困難ヨク、極ク一少部ハ疎開ヲ見ズ
 二、過ギズ、疎開人口、十萬トス

三、企業整備、官民事務簡素化等、住居ニ
 轉業者、軍需生産部門ハ、勤員ハ住居地、近郊ニ

總力戰研究所

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交 付 先
(演習官職)

報 告 又 ハ
通 知 先

統 監 部、 武 力 戰
思 想 戰 經 濟 戰 外 交 戰
審 判 部

發 令 者

統 監 部

戰 審 判 部

交 付 時 機
(想 定) 昭 和 十 年 月 日
(實 曆) 日 午 前 時 分

外 交 戰 審 判 部

思 想 戰 審 判 部

經 濟 戰 審 判 部

439

通 告 十 七 日 上 場 十 七 日 午 前 國 際 生 活 問 題 研 究
こ の 所 定 計 画 ノ 中 心 日 見 々 リ
一 回 航 空 機 構 一 般 的 備
生 産 物 資 配 給 統 制 二 箇 月 間 概 備 具 体 案 未 分 政
府 日 々 具 体 的 考 慮 表 示 業 者 一 律 早 期 快 字
ヲ 希 望 シ 展 レ リ

人 勢

總 力 戰 研 究 所

220

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青島大本營、日商

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
審判部

交付時機
(想定) 昭和十九年二月三日
(實曆) 十一月九日午前九時

發令者

統監部
戰審判部

第一 勤王月圓情況 第二 追加 其ノ五

一五 外地米、移入官署現存判斷スルニ十九日午後移入數量ハ
四百二十万石、見込

一六 滿洲ヨリ大豆、計畫通り輸入、見込ハ十二万石、他、雜穀
ハ五十万石ノ輸入ニ止ル見込

機密

統監部

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先 (演習官職) 青國外務大臣

報告又ハ先 統監部、武力戰 外交戰 思想戰 經濟戰 審判部

交付時機 (想定) 昭和十九年二月一日
(實曆) 一月九日午後〇時

發令者 統 監 部 外 交 戰 審 判 部

外交戰審判部

日サ蘇交渉
一、三月末サ蘇側ノ態度左ノ通

二、不可侵條約締結問題——中立條約尊重

一本槍ニシテ新ニ不可侵條約ヲ締結スルコトニ

興味ヲ示サズ

二、通商ニ待テハ乘氣ナリ但シ戰爭下ノコトナレバ又々キヲ

期待スヘカラスト附言ス

思想戰審判部

三、駐サ蘇大使ハ左記意見親ヲ上申セリ

イ、防備制限問題ハ不可侵條約ヨリ切リ離シテ單

經濟戰審判部

總力戰研究所

獨ニモ持出サルル方針ナリヤ 兩國間之零固策ノ好轉ニ俾
 と兩國暗黙裡ニ相手方ノ措置ニ對應シテ自己ノ
 防備ヲ軽減スル一從テ何レカ一方ノ斷ヲ必西女トス トニラフカキ
 性所具ノモノニハアヲサレカ而シテ兩方固氣ノ好轉ノ第一歩ト
 シテ利権解消ヲトラフベキニアラハルカ
 口通商問題ハ現状下(一九九年三月)日獨關係ヨリ見
 于兩推進ニスルヲ可トスルヤ疑問アリ

三 三月末迄某案暫定協定成立セリ

243



第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青 國 外 務 大 臣

報告又ハ
通知先

統 監 部、 武 力 戦 審 判 部
思 想 戦 審 判 部
經 濟 戦 審 判 部
外 交 戦 審 判 部

交 付 時 機
(想 定) 昭 和 十 九 年 三 月 末 日
(實 曆) 二 月 九 日 午 前 一 〇 時 分

發 令 者

統 監 部

外 交 戦 審 判 部

日 獨 交 渉

歐洲新秩序會議ニ關スル獨逸政府ノ意嚮
獨逸政府ハ日本政府ノ意見ニ同感ニシテ目下進行中ノ
「ムルカ」ノ政治工作完了ヲ俟テ速ニ(薄)クトモ四月上旬
ニ歐洲諸國代表ヲ伯林ニ召集シ、歐洲新秩序會議
議ヲ開催シ、對英米戰完遂ニ關スル決意ヲ其土
礎トシテ歐洲新秩序ニ關スル宣言ヲ發表スルヲ定
ニシテ目下折用準備中ナリ

244

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)
報告又ハ先

主月國大本及、口國

統監部、武力戰
思想戰 經濟戰 外交戰
審判部

發令者

統 監 部

戰 審 判 部

交付時
機 (想定)
(實曆)

昭和十九年四月二十六日

十一月九日午前 五分

第一期五月演習追加情況第三

一、四月下旬支那方面航空戰況詳十リ

米軍航空機ハタル損害 四〇機撃隊上

五月四日軍報云々 十五機

二、東亞戰域ニ於ケル敵潜水艦ノ通商破壊戦術

ハ去歲トセリ

四月一〇万吨 五月八万吨 一、青島船舶被害

(夕方一トモラ合ハ)

三、五月入り滿洲國ニ何省及里龍以懐域一帯ニ丹痘病死生セリ

謀略員諸君ノ注意アリ

總力戰研究所

247

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青田、大本、燃、白田

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰、外交戰
思想戰、經濟戰、審判部

交付時機
(想定) 昭和十九年四月廿六日
(實曆) 十月九日午後一〇時四十分

發令者

統監部

戰審判部

第一勅 青田國情況第三追加其二

四、對支之爲替維持及物價騰貴ニヨリ在支邦人ノ帰國

スルモノノ夥ク増加ス

五、重要物資ノ國家管理及市場徵用ノ發表ニ伴ヒ其ノ

一實施ニ伴ヒ在ノ如キ之思見アリ

(1) 統制會カラ面ニ於テハ生産業ニ對スル國家ノ根本方針ヲ明

確ナラシムベシトノ要請ト共ニ一部ニ生産業ノ氣分アリ

(2) 徵用ニ關シテ前收メトシテ差額ヲ國家ニ於テ

入金額補給スルニ等各種ノ動メタル者アリ

(3) 一般輿論ニ於テ政府ノ徵用ヲ希望セリ

總力戰研究所

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主官(副)

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
外交部
審判部

發令者

統監部

戰審判部

交付時機
(想定)

昭和十九年四月五日

日

交付時機
(實曆)

十一月九日午後二時

分

六、(農商)内省(信)十九年及民需衣料資材ハ十八年及ニ
比シ約三割減見込、消費財金面ニ於テハ將來益ニ
窮屈見込見越シ強及ノ至点主義ノ要望其ノ他各
種ノ主眼見込ノ爲ス者アリ

七、大東亞共済圏ニ於テハ戰局ノ反影狀況在ル如シ
泰内閣内、米英派著シテ松頭ニツヒテ自相ノ意ハ如
クナラズ、ハニコウク空襲艦隊ノ際、輝火ヲ舉ゲタルモノアリ
再印對日協カ善シ消極化シ米ノ集積亦昨年ニ比シ
五割減ニ安希人、邦人ヲ侮辱スルモノ由ビ増加セ

總力戰研究所

機密

統監部

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先 (演習官職)	報告又ハ 通知先	統監部、 武力戦 経済戦 外交戦	發令者	戦審判部	交付時間 (想定) (實曆)	昭和十 年 月 日 午前 午後 時 分
---------------	-------------	---------------------------	-----	------	----------------------	--

外交戦審判部

飛行機

機

ヲ失フ

インゴニヤ方面

ブレンハイデン、高カニ敵ヲ圧シ、ブリゲンビル島全部

奪回

赤十字機四隻、巡洋艦八隻、駆逐艦一、重砲台

飛行機八〇〇機撃墜(三月十日)

青島、板橋、一、巡洋艦二隻、駆逐艦四隻

輸送船三隻、飛行機二隻ヲ失フ

(續)

思想戦審判部

經濟戦審判部

35

總力戦研究所

252



第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青島大專官の函

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
審判部

發令者

統監部

戰審判部

交付時間
(想定)
(實曆)

昭和十九年四月二十日
十一月九日午後一時〇分

第一、青島大專官の函第三追加第四

一、關於行為取締ヲ對象トシテ統制機構、配給機構、漸次
整備セラレ、ソレハ人民量事情ヨリテ配給量、増加ヲ見ズ
還及者ニ對スルニ檢舉ハ相當、摘及ラレタリ。一般ニ上流
社會ノ一部統制會社職員等、檢舉ニ付テハ其鳴ラ、
アルモト統階層、被檢舉者數多キコト等ヨリ不安
之動機ノ色アリ。又上流社會其ニ他ニ檢舉ハ手未ダ及バザ
ルヲ以テ難スル者アリ
關於手段ニ要質潜行化スル傾向ニアリ

(總)

總力戰研究所

(10)

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主内國外務大臣

報告又ハ
通知先

統 監 部、
武 力 戰
思 想 戰
經 濟 戰
外 交 部
審 判 部

交 付
時 機

(想 定)
(實 曆)

昭和十九年六月末日
一月九日午前一二時 分

發 令 者

統 監 部
外 交 部
戰 審 判 部

日蘇交渉

東郷特派大使ト蘇聯政府ト困難ナル交渉ヲ重シニシテ
ル結果六月末概テ左記如ク日ニ依リ交渉ニ妥協結
シタリ

一 北樺太利權ハ之ヲ解消ス 條件ハ概テ蘇側ノ
主張ヲ谷ル

二 利權解消ト同時ニ日蘇兩國政府トモ兩國之交ノ
基調ガ中立條約ノ尊重ニアルコト、從テ兩國ノ何
レモ自國領土ヲ相手國ノ敵國ノ為ニ軍事基地ト
シテ提供スル意向ナキレバ日ヲ明ニセル中立條約再確

認ノ宣言成立ス

三 通商交渉ハ原則上同意成リ、具体的條件

一品目、数量、運送、支拂可關スル細目ノ協定ヲ

兩國專門委員會日二一任スルコトス 蘇側ノ

希切王スル物次員ゴム、キナ、

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主日回大本堂 内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戦
思想戦、經濟戦
外交戦
審判部

發令者

統監部

交付時
(想定) 昭和十九年回五二月
(實曆) 十一月九日午後一時三十分

第一動主日回大本堂 第三色加四二五

一、五月五日敵機B-29一〇〇機パレバン未龍長

二十機毀陸三製油所一所破損製油能力を削減

「タウ」四基焼上
六月後復旧見込

○五月五日敵大型機八機八幡製鉄所ヲ爆撃セリ

二機墜陸四〇〇屯炉一基破損約一斗使用不可能

○五月二十日敵機十二機千島占守島ニ集結飛機場ヲ爆

撃セリ六機墜陸我方施設ニ大ナル損害ヲ与ヘ未詳機二機

(要旨) 千島占守島ニ武力侵襲一高射砲會操機演習ヲ行ハシ

456

機 密

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

統監部、武力戰、外交戰
審判部

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰、外交戰
審判部

發 令 者

統 監 部

戰 審 判 部

交 付 時 機
(想定)

昭和十九年四月五日

十月九日午後二時〇分

第一動主日國情況 第三追加其ノ一

一三 五日止自米及二軍、ガレ、ル、島ニ、武カ侵襲ニ、入、

ンニ對ス人食糧補給ヲ停止セル、如シ

一三 米國ハ南米諸島(重カヲ除ク)ノ艦隊ヲ接收セル

モ、如シ

一四 五月十日、ナワカニ、ガレ、ル、島ニ、回教徒、臨時大會ヲ開

キ、宣ハシ、反起、動、宣ハシ、ヲ、天、議、シ、フ、イ、ン、ド、ネ、ン、ア、回、教

ト、宣、ハ、シ、テ、助、カ、ヲ、授、付、明、ス

一五 五月二十日、島南東海、面ニ、艦隊、主力、現、シ、タ、ル、

後、行、動、不、明

總力戰研究所

五

④

機密

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主丹國外務大臣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰、外交戰、思想戰、經濟戰、審判部

發令者	交付	昭和十九年
	時機	二月九日午後二時
統監部	(想定)	昭十九年
	(實曆)	二月九日午後二時

外交戰 審判部

十九年六月ニ於ケル情勢

一 アルゼンチンニハ米ノ強要ニ屈シテ 対軸軸斷交

ヲ聲明セリ (六月)

二 ヲラアル諸島武力進駐ニ對シ西班牙ハ泣復入

体、強逸ハ英米ノ中立國ノ立場無視ノ非違ヲ呼

号シソソモ西班牙ノ中立態持ニ腐心シソソアリ

米英ノ對西食糧供給停止ニ依ル相互援助條約

強西女ニ對シテハ抵抗派(コランゴ、コフランランハ派)ト英

米派(貴族、僧侶、社會主義派)トニ分レ國内騒然

タリ

258

三蘇社分單獨講和成立(六月)

總力戰研究所

機密

統監部

第一期演習追加情況(課題) 其一

交付先
(演習官職)

青国大本営内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戦
思想戦 經濟戦 外交戦
審判部

發令者

統監部

戰審判部

交付時間
(想定) 昭和十九年 月 日
(實曆) 十一月九日午後二時三十分

第一勦青国情況第三追加 其一七

一六、六月末に於ける歐洲戰況

(1) 独ノ戰線及伊和利戰線ハ三月末ノ状況ト大ナル變化ナシ

(2) 西起動空軍、爆撃機ニ依リ独逸ノ石油生産地ニ及リ

三割減 其地ノ重工業第一乃至三割減ト推定スル

(3) 四月末に三月末ニ比シテ青国ノ船舶喪失一三〇万屯

六月に於テ一五萬屯ノ船舶喪失一二十万屯(知カ一億又)

(印)

外交戰審判部

思想戰審判部

經濟戰審判部

總力戰研究所

五

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主丹國 外務大臣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰、外交戰、
思想戰、經濟戰、審判部

發令者

統

外交戰 監審判部

交付時機 (想定) 昭和十九年六月未日
(實曆) 二月九日午後二時三〇分

日獨交渉

駐獨大使及松岡特派大使ノ獨逸總統及政府當局ニ對スル勸説ノ結果 獨逸側ハ左記意向ヲ表明セリ

日本が對サ蘇國交調較可オ必要トスル所以ハ良ク了解セリ 調整ノ成功ヲ祈ル但シ通商問題ニ付テハ蘇ノ戦力増カノ結果由來サソル杯嚴ニ注意アラランコトヲ望ム 獨サ蘇休戦又ハ和平ガ現戦事ヲ批軸側ノ勝利ニ終ハラシムル有力ナル方途タルコトニ付テモ本ノ見解ニ同意ス困難ハ如何ニシ

ナリ
テ休戦又ハ和平ヲ招來スルヤノ事
海員上ノ困難

總力戰研究所

機密

統監部

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付時機 (想定) 昭和十九年七月一日
 (實曆) 十月九日午後三時五分

交付先 (演習官職) 青島日本守備隊

報告又ハ先 統監部、武力戦、外交戦、思想戦、經濟戦、審判部

發令者 統監部 戰審判部

武力戦審判部

第一期勅令青島國情況第四

ゲッペルス宣傳相演說要旨(七月一日)

外交戦審判部

ルイス・イムレニ對スル不信任ノ道行爲ニ對シテ、
 防備ノ完備セリ

東部戰線モ兵力ノ損耗ニ極メテ、
 反撃ノ人オカク甚田ヘコナリ

一部兵領地域ヲ放棄シタスニ、
 食糧ニ何等ノ不安ナク「ボルシ

エグライズム」ヲ倒シ、
 歐洲諸國ニ對シテ、
 結果ニナリ

日ソ兩國ニ對シテ、
 調整ノ成功ニ國民一般ニ、
 一應安堵感ヲ興ヘ

タルモノナシ、
 然レトモ北極地ニ、
 代償過大ナリトシテ、
 印

象ヲ興ヘ、
 我戰局ノ不利ヲ、
 臆懼スルモノアリ

(總)

經濟戦審判部

思想戦審判部

總力戦研究所

機密

統監部

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青島方面

報告又ハ
通知先

統監部、武力戦
思想戦、經濟戦
外交戦
審判部

發令者

統監部

戦審判部

交付
時機
(想定)

昭和十九年七月十日

日

十一月九日午前
三時三十分

第一勅青島情現等四追加其ノ

三、(軍需有回送)増産對策一般ニ順調ナルモ中小協力

工場ノ生産力ニ相当ニ上進レノ状況ニアリ一方中小工場ノ

轉換ニシテ尙氣遣ノ者多クナリ情現モ同様ナル。

四、(大藏省内送)企畫案整備及増税ニヨリ所得一源及負擔

状況ノ變化ノ影響甚大ナルニ爲貯蓄金ハ予定ノ如ク進捗セズ

様々ナリ但シ戰勝債權ノ高價行良行ナリ

五、(内政)政府ノ高反統制對策ノ噂傳ヘシ株式市場ノ混亂

ヲ示シテアリ。雜株一部著騰ヲ見ワケアリ

統

總力戰研究所

武力戰審判部

外交戰審判部

思想戰審判部

經濟戰審判部



統 監 部

第一期演習追加情況(課題) 其一

交付先 (演習官職) 青島大本營内閣

報告又ハ 統監部、武力戰、外交戰、思想戰、經濟戰、審判部

第一動青島情況第四追加其一

六、敵空襲狀況(通)

(1) 七月廿日 B-29 約百機 未龍長門 三十機 擊隊エサレ七十

機糸沿地帯以青島浦第一未龍長セリ

東京七機 丸の内一帯万火の火

横濱一機 三菱造船所船一破壊 昭電生産一機

減復日三月廿日

鶴見一機 日本鋼管四〇七炉一破壊復日一年ヲ要ス

川崎二機 日本鋼管三〇七炉一破壊復日不可能

蒲原七機 日本輕金屬生産二機 浦一復日三月ヲ要ス

空襲被害の二倍 青島内各機整隊セリ

總力戰研究所

發令者

統監部

戰審判部

交付時機 (想定) 昭和十九年 月 日
(實曆) 十一月九日午後四時三〇分

經濟戰審判部

思想戰審判部

外交戰審判部

武力戰審判部



統 監 部

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交付 (想定) 昭和十九年七月 日
時機 (實曆) 十月九日午後四時三十分

交付先 (演習官職)

五月(國)石本(之)内(國)

發令者

統 監

戰 審 判 部

武力戰審判部

報告又ハ先

統 監 部、 武力戰 外交戰 思想戰 經濟戰 審判部

外交戰審判部

思想戰審判部

經濟戰審判部

第一節 五月(國)情況 第四追加其ノ一

七、京橋、名古屋方面(國)民衆(之)收買保護(ノ)概(シ)

一、順(當)ニ行(ハ)シ(タ)ル(ニ)シテ、今(後)ノ運(轉)シ(テ)對(シ)テ(ス)コト(困)難(ナリ)

八、(國)民(時)上(層)者(中)ニ滿(洲)組(防)衛(活)動(不)良(ナル)コト(又)其(ノ)

通(後)近(郊)別(荘)ニ退(避)セ(ル)コト(アリ)テ、所(以)ニ此(種)ノ(事)件(ナリ)

九、(又)通(線)國(境)混(雜)事(爲)學(生)生(徒)ノ通(學)ニ(大)キ(ク)支(障)

ヲ(與)ス(ル)地(域(アリ)

一〇、七月(ノ)早(稲)地(區)定(額)米(ノ)際(ニ)備(造)始(日)然(幣)七(百)万(円)以(上)ヲ(撤)布(セ)

タ(レ)且(内)五(百)万(円)外(市)民(給)得(一)部(可)使(用)ス(ル)者(アリ)

一一、十月(九)日(早)稲(地)區(定)額(米)際(ニ)備(造)始(日)然(幣)七(百)万(円)以(上)ヲ(撤)布(セ)

總力戰研究所

367



第一期演習追加情況(課題) 其一

交付先
(演習官職)

主月回本書 口角

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰 經濟戰 外交戰
審判部

發令者

統

戰審判部

交付時機
(想定)

昭和十九年十月九日

(實曆)

十月九日 午前九時三十分

此第一勅主月回本書第四追加其四

一、對日貸越決議ニ付金ノ支拂ヲ要求ス
最近ニ於テハ又々物價騰貴ノ傾向ニアリ尚長ク於テハ
對日貸越決議ニ付金ノ支拂ヲ要求ス

(統)

五

①

268

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)
去月國外務大臣

報告又ハ
通知先
統監部、武力戰、外交戰
思想戰、經濟戰、審判部

發令者

統
外交監
戰審判部

交付時機
(實曆) 昭和十九年十月十日午後一〇時
(想定) 昭和十九年十月 日

日ヲ蘇交涉

蘇側ハ蘇領着陸ノ米飛行機ノ抑留及
搭乗員ノ抑留ノ確約也(九月末日)

269

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青島大本營 内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰、外交戰、
思想戰、經濟戰、審判部

交付時機 (想定) 昭和十九年 月 日
(實曆) 十一月十日午前 一〇時五〇分

發令者

統監部 戰審判部

第一期勤王月國情況第四追加其ノ五

一三、十月末ニ於ケル戰況左ノ通

(1) 十月下旬「アンダマン」ニコバル」方面ハ青島軍ノ猛烈ナル爆撃ヲ

陸兵ノ增加トヨリ大改動ヲニヨリ、赤軍ハ敗退セリ

四、七月一十月末ニ於ケル飛行機艦船人員ノ被撃損喪

飛行機 二〇〇機 青島 一、〇〇〇機

艦船 巡洋艦 一隻 巡洋艦 五隻以上

駆逐艦 五隻 駆逐艦 十五隻以上

輸送船 四万屯 輸送船 二十万屯以上

人員 二萬 二萬七千

總力戰研究所

370

2

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

報告又ハ
通知先
統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
外交部
審判部

發令者

交付時機
(想定)
(實曆)

統 監 部

戰 審 判 部

昭和十 年 月 日
日 午 後 前
時 分

(一) 七月一十月二通高破壞戰

青島、被室 三十五万吨

青島、歐洲三被室

二百五十万吨

(統)

五
④

①

371

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主月國外務大臣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰、外交戰
思想戰、經濟戰、審判部

交付時機
(想定)

昭和十九年十一月一日

(實曆)

十一月十日午前10時

發令者

統

外交戰

監戰審判部

日獨交渉

獨蘇和平問題

効

松岡特派大使必死ノ説得

ハ日本政府ガ自發的措置トシテ獨蘇和平ニ

關シテ蘇側ノ意向ヲ打診スルコトヲ承諾セリ

和平條件及對蘇申入ノ時機ニ付テハ日本側

意見ニ概テ同意セリ (十月下旬)

372

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青國大本營、内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰、審判部
外交戰

發令者

統 監

戰・審判部

交付時機
(想定) 昭和十九年 月 日
(實曆) 十一月十日午前 一〇時 分

第一動青國情況第四追加其ノ兵以上

一四、七月、十月、歐洲戰況、左ノ通過

(1) 獨軍ノ七月上旬ヨリ「キエフ」西方ヨリ「ドニエプル」河流右岸地ニ於テ

一大攻勢ヲ開始シ十月末迄「スモレンスク」ホルモウ「ドニエプル」ヘトログ

スクレノ線ニ十月末進出セリ

ソ蘇軍ニ些ハタル損害ニ 二五〇万

獨軍ノ損害 一〇〇万 (獨側発表表)

(四) 八月上旬「セバストポール」ニ蘇軍ノ手ニヨリセリ

・スペイン戰線

(三) 杞軸側ニ獨軍三箇師 スペインニ 一四万ノ獨軍ニ約

總力戰研究所

374

記録

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青國內閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
審判部

發令者

統監部

交付時機
(想定) 昭和十九年一月
(實曆) 十一月十日午前十一時

第一勅主月田情況第四追加其ノ七

一五、次員金銀行ノ統制強化ハ日滑ニ實施ヲ見ツ、ア
ルニ最近經濟自治雜誌ニ於テ政府ハ配當ノ抑制
強化及利子ノ引下ヲ爲スニシテ檢測的意見ヲ發表
セルモノアリ、此ノ經濟考察ニ對シテ本由題ヲ論
議スルノ模樣ナリ

總



第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

五月十日午後

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰、外交戰
思想戰、經濟戰、審判部

發令者

統監部

戰審判部

交付時機 (想定) 昭和十九年十一月十日午後 時 分

第一勅書青國情況第四追加

一六、長北及偏印、反日的行為、日本軍ノ威壓ノ對印

進取作戦進取ニヨリ表面 靜謐トナレリ

一七、空襲ニ際シ撤布セルタル偽札用紙幣、政府ノ措置

ニ依リ大部分ノ回收ヲ見タルモ尚約五十万用未回收ニ

シテ京浜地区ニ拾得紙幣ノ接受ニ付多少ノ混乱

アリ

外人良券、強ト全部回收済ナリ

一八、滿洲ニ於テ偽札、偽外良券、相當量使用セラレ、

アリテ一部ニ通過會子券ノ念心アリ

一九三九年産米 (一九三九年十月)

内地作柄良 六、五〇〇万石

朝鮮 不良 一、六〇〇万石

台湾 中 八、五〇万石

昭和二十年及二十一年

曲作 政府計画、通、官收

(2) 野菜、魚介等配給機構確立以來サレタル支障

ナキモノ、如シ

(終)

377

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

大東亞大臣

報告又ハ先

統監部、武力戰、外交戰、思想戰、經濟戰、審判部

發令者

統

外交戰監審判部

交付時機
(想定)

昭和十九年十月末日

(實曆) 十一月十日午後(一時三〇分)

大東亞共榮圈施策

一 日華同盟條約ノ推進ハ中國要人側ノ對日協力ノ熱意ヲ昂揚セシメアリ(十月)

二 閻錫山汪國民政府ト協力通電ヲ発ス(十月)

三 新政策ノ推進ト之ニカフルニ物價高ヨリ來ル生活難

ノ脅威ノ下、在留邦人ノ不安動搖ハ依然ヤマス、都

市ニヨリテハ在留民大會日開催說等ヲ流布セラレ、外

地引揚ヲ決行スル者多ク現レソアリ

270

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青 國 大藏大臣
大東亞大臣

報告又ハ
通知先

統 監 部、 武力戰
思想戰 經濟戰 外交戰
審判部

發 令 者

統

外 交 監 戰 審 判 部
戰 審 判 部

交 付 時 機
(想定)

昭和十九年十一月 日

(實曆) 二月十日午前二時 分

對華物價政策

一、日本側ノ要望ニ對シ汪院長ハ高物價ガ華人ノ民生ニトリ
 最重要ノ問題ニシテ國民政府トシテモ日本側提示ノ方
 針ニ依リ之ガ解決ニ邁進スベシ但シ強制貯蓄ノ如キ
 日本ニ於テスラ尙現實問題トセラレラサル指道ヲ中國ニ於テ今
 直ニ實行スルハ國民政府ノ政治力及斯ル政策ヲトルベ
 シトノ政府ノ方針ソレ自体効力無キニ
 不ノ自
 支接ヲ賴マス断テ強力ナル經濟施策ヲ執行
 日本側申出
 之ガ為日本政府ニ於テ國民政府ヲ信

頼ミ速ニ日華同盟條約ノ精神ヲ生カシ終極自主
 カヲ支那側ニ與ヘラレシムトシ王ムトノ態度ヲ表明
 セリ(十一月)

二 國民政府ニ於テ物價政策ニ關シ何等斷乎スル措
 置ヲ執ルベシトノ風評行ハレ苗下人一般ニ物資退藏
 行ハレ物價奔騰ノ傾向アリ
 三十九年冬支那各地餓死者頻出

300

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青國大本營内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰、外交戰
思想戰、經濟戰、審判部

發令者

統監部
戰審判部

交付時機

(想定) 昭和十九年十一月
(實曆) 十一月十日午後前
一四時三十分

第一動青國情況第四追加其九
二〇、十一月、十二月ノ戰況

(一) 印度方面

十月上旬五月軍ハ「ブラマポトラ」河河口ニ敵前上陸セリ

西軍ハ「ゴハチ」「チエラフンジ」「ゾカレ」線ニ於テ激戰中

當方面ハ彼我損失

飛行機 三〇〇機 赤 一、〇〇〇機

船舶 五万屯 二万屯

人員 一万五千 五万ヲ下ニス

(二) ベンガル灣海戰

總力戰研究所

十一月五日ベンガル湾ニ於テ大ニ海戦アリ
敵ニ些ニタル損害 戦果左ノ如シ

戦艦 三隻
空母 四隻
飛行機 四〇〇機以上
巡洋艦 七隻

~~青軍ノ損害~~

(三) ミネーガニヤカ方面
戦艦一隻 空母一隻 巡洋艦三隻 飛行機一五〇機

(四) ココス島ニ赤軍ノ航空母艦地ヲ橋頭築キ
フインレハクエンレノ赤軍ノ艦、道野中、マダン南方地区ニ於テ激戦アリ
但シ爆撃機ノ使用、不可能ニシテ 戦機ノ是地トシテハ
使用不能、水上機是地トシテハ役に果シ得。

機密

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青國大本營内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戦、外交戦
思想戦、經濟戦、審判部

發令者

統監部

戦審判部

交付(想定)
時機(實曆)

昭和十九年十一月

十一月十日午後一五時四五分

第一動青國情況第四追加其ノ一

二、十一月迄、戰況追加

(一) コゴス島方面

コゴス島攻略作戰十一月中旬決行セラレタリ。敵戦中機

三ノ機ノ活躍ノ為相當ノ損害ヲ蒙リ、駆逐艦ニ、輸送

艦ニヲ失ヒ、且、他三分ニハ、兵ヲ失ヒタルニ、遂ニ之ヲ

奪取セリ

(二) 濠洲西北部ヨリスル「チモール」アル「ケ」諸島「バリソクハ」

「マカサ」ノ爆撃強化セラレリ

(三) 十一月初旬「ウエーキ」空母ヲ見舞ハル部隊ニ改修ヲ行ケリ

四、在支空軍 擊滅敵艦航行 敵空軍の軍、ヒツソクセリ

三、沿海洲の出入を能く機 操飛員ノ帰還ヲ事案セル

カ、如ク 敵艦進入ニシテ 敵艦高見 且他ヲ 毒島ニ 向直シテ

アリ

三、米國生産局長官ブルソン氏發表

「豫ニ「カネザ」造船所ニシテ 運送ヤチリン E.C 型

空母大量生産ノ期、トパー 空母一部ニ於テ

運送ヤチリン評定ニモ 當局ニ之カ 集團的運用ヲラ目付シテ

レポート

二四、十月ヨリ 毎日一回、重要運送飛行ニ 大津故障あり

連続レポート

二五、敵艦高破壊ノ 戦果

十一月二十三日、五日間、船舶破壊量ニ 〇万屯 (タンカーヲ含メテ)

九州に於テ、トパーノ 戦果(十一月十日) 九〇万屯

總力戰研究所

284

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主日國大本營内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戦
思想戦、經濟戦
外交戦
審判部

交付
時機
(想定)
昭和十九年十一月
十一月十日午後二時三十分

發令者

統監部

戰審判部

第一動青日國情況 第四追加兵ノ一
二六隣組常會ノ話題

「值上噂ノ為煙草が姿ヲ消シマシタガ、ト母ト申コウ言フ
コトデハ困リマス。ト昨ト申信ニナリタ上ニ又々值上ト言フノハ政府
又親切心ガ足リナイヤウニ思ヒマス。一層ノコト少クジ我
慢ニマスカラ 配給制カ何カあるナイエノデヤウカ」

(印)

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先 (演習官職)

主月國外務大臣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
外交部
審判部

發令者

統

外交戰
監審判部

交付
時機
(想定)
(實曆)

昭和十九年十一月

日午後
時
分

日蘇交渉

十九年十一月迄ニ於ケル日蘇交渉ノ狀況左ノ通

一 通商問題——專門委員會日ニ於ケル日本側

ノ態度ガ解決遷延ニ在リトノ印象ヲ得居ルモノノ如

ク連カニ具體的解決ニ達セント督促シツツアリ

二 不可侵條約問題——車御大使ノ申出ニ對シ中立

條約第一條(「相互ニ他方締約國ノ領土ノ保全及不

可侵ヲ尊重スヘキコトヲ約スト定ム)ヲ指摘シ、中立

條約(尊重ノ聲明ニカヘテ、不可侵條約ヲ締結

セントスル日本側ノ底意ヲ把握スルニ苦シムトノ態度

ヲ執リアリ

三 獨サ茲和平問題——不可侵條約交渉ニ關

聯シ東御大使ヨリ戰爭終結ニ對スルサ蘇

側ノ見透如何トノ質問ニ對シモ「トフ」ハ眼前ノ戰

局ノ如何ニ拘ラスサ蘇側ハ依然トシテ十八年一月六日

蘇聯革命第二十六週年紀念日ニ於ケルスターリン首

相ノ演說ニ明示セラレタル今次戰爭ニ於ケルサ蘇聯

ノ戰爭目的ノ達成スル迄戰フベク且戰フコトニ依リ

目的達成ノ可能ナルヲ信スト速ヘタリ

(註)前記戰爭目的

- 1) To liberate all nations from Fascist tyranny and to remove them from slavery
- 2) To insure to all nations the freedom to choose their own form of government
- 3) To insure that all who have committed crimes in this war are duly punished
- 4) To establish in European order which will eliminate Germany from making another attempt of aggression
- 5) To establish cultural, economic and political collaboration between the European nations based on mutual confidence.

總力戰研究所

387

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主計國大車室の内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰 經濟戰 外交戰
審判部

交付
時機

(想定) 昭和十九年 一〇月 日
(實曆) 十一月十日 午後 一六時 五分

發
令
者

統 監 部
戰 審 判 部

第一 勅 主計國大車室第四進加其ノ一ニ

二七 軍需省ニ於ケル全軍需生産ノ一元化ニ伴ヒ

新聞 經濟雜誌ニ於テ造船海運ノ方面ニ

於テ更ニ機構ノ統一強化ヲ計スルトノ論

評一 或早シキ

(統)

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青國大本營、内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戦、外交戦
思想戦、經濟戦、審判部

交付
時機

(想定)
(實曆)

昭和二十年三月
十一月十一日午前
時 分

發令者

統監部

戰審判部

第二動青國情況第一追加其ノ一
三月末ニ於テ戰況在ノ通

(一) 印度ノ方面

青軍ノ進出ニ對シテ、遂ニ「カルカッタ」ヲ佔領セリ。日一西軍ハ「
カレリンガ」ヲ「カルカッタ」ニ結ブ線ニ對シテ、時中

(二) ニエーギニアノ方面

赤軍ノ進出ニ「マダン」ヲ奪取セリ

(三) 三月十日十數隻ノ空母ヲ其ノ部隊ハ南島島、大島

島ヲ急襲シ、南島島ハ敵ハ陸軍トコロトナリ、遂ニ

奪取セラレタリ

船舶	飛行機	人員	艦船	飛行機	人員	飛行機	人員	飛行機	人員	艦船	飛行機	人員	艦船	飛行機	人員
十万吨	四〇〇	一万	〇	一〇〇	一千	四〇〇	五千	四〇〇	五千	〇	一〇〇	一千	〇	一〇〇	一千
〇	八〇〇以上	五乃至六万	空母一、洋艦三、輸送船二五	四〇〇	上陸部隊、半ヲ撃滅	一、〇〇〇ニ近キモ、ヲ撃滅	一、〇〇〇ト云ク	一、〇〇〇ト云ク	一、〇〇〇ト云ク	〇	〇	〇	〇	〇	〇

總力戰研究所

四) 赤軍、千メートルヲ砲撃、敵ニ相当ノ損害ヲ與フ
 タルモノ一部、千メートル以上ノ砲ニ成功セリ
 三) 二十一年三月末迄ニ於テは、波我ノ損害在ノ通

(一) ニューギニア、ソロモン、リリ方面

五月

赤軍

(二) 千メートル方面

上陸部隊、半ヲ撃滅

(三) 印度方面

空母一、洋艦三、輸送船二五

3.

(三) 伊太利戰線 法渡心戰況ノ變化ナシ 依然トイワ、中キヤナリ	(一) 独蘇戰線 一軍、冬期攻勢ニ付三月迄ニ一九三九年ノ日國境線ノ線ヲ確保スル(北方ノ独ノ戰略退却ニ見)ロバルト三国ノ	四、歐洲戰況(二十年三月末) 一四〇万トシ	(二) 歐洲新トシニ英果船隻投棄(十二年一月一三日) 四〇万トシ(タンカーニ復シ船場ヲ受テシム)	(五) 二十年一三月間ニ新トシニ青國船隻投棄 四〇〇〇〇	艦船 〇 戰艦ニ付母ニシテ洋艦數隻	(四) 南島方面 人目ニ減 五五
--	--	--------------------------	---	---------------------------------	-------------------------	------------------------

青國

青國

4.

三) スペイン戰線

大北變化なし 英軍後退のこゝに 独軍の 勃発

海上部隊 築造破壊ヲ 試みるに 擊退

四) 北歐戰線

三月下旬 英軍上陸成功 独軍に 激戦中

五) 一月下旬 伯林に 維細大爆撃 機數二千以下 人口、

死傷 約一市街、二〇% 焼失入

六) 支那方面

三月末 在支 敵軍、半數ヲ 撃滅ス

七) 三月末 島南方面 巨額失敗、 全滅ニ 近キ 損害

7 愛 4 5 5

(終)

292

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青國大本營内閣

報告又ハ
通知先

統 監 部、 武力戰 外交戰
思想戰 經濟戰 審判部

交付
時機
(想定) 昭和二十年一月一日
(實曆) 十一月十一日午後九時五分

發令者

統 監 部

戰 審 判 部

第二期青國情況 第一

一、(1) フーゲンベル島及びニールギニヤの方面ニ對スル空襲激化シ

敵機ハ高ヤ、四〇〇ト至五〇〇機 春蠶ノ如ク 敵地ニ上リ力及

船舶ニ被害セリ

(2) フエール及ソノ背後地ノ空襲龍衣ニ激烈ニシテ又、濠洲西北

部ニ舟艦ノ動キアリ

(3) 印度方面ノ敵大凡ニ〇箇師ト推定スルニ猶機械化兵團増加シ

(4) 二月十日南島島及大島島ノ空襲ニ對シテ是等ノ空襲トスルハ

龍衣部隊ノ攻撃ヲ受ケタリ、飛行場使用不可能 復旧ニ一

月ヲ要ス、空襲ニ對シテ是等ノ空襲トスルハ

總力戰研究所

五

④

①

298

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青國政府

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
外交部戰
審判部

交付時機
(想定)
昭和二十年
月 日
(實曆)
月 日 午前 午後 時 分

發令者

統
外交監戰審判部

重慶工作

帝國政府ノ意思何通達ヲ受ケタル蔣介石ハ頭山
海ノ名前ヲ聞フヤ憤然色ヲ為シ日華關係ヲ今日
ニ至ラシメタルハ會員ニ日本ノ對華政策カ既往ニ於テ同
人非軍ニ依リ動カサレタルニ由因ス今日尚斯ル人物
ニ手ヲカラズンバ日華關係打通ノ途ナシトスル日本
政府ノ認識ヲ以テレテハ會日談モ無用ナリト一
蹴シタル趣ナリ (二十年二月)

葡ノ対日宣戦

帝國ノ「マカオ」占領ト同時ニ葡國ハ対日宣
戦シタリ（十九年十一月）

295

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主月國政府

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
外交戰
審判部

發令者

統
外交監戰審判部

交付時機
(想定)

昭和三十年一月末日

(實曆) 一月一日午後一時分

日蘇交渉

一 通商問題 — 一九年十月協定成立但シ

二 通商問題 — 一九年十二月條約成立(期

限五年) 重要懸案ノ一ツ解決ヲ見、兩

國ハ友好轉ノ色コシ

三 不可侵條約問題 — モロトクニ態度ヲ變

更セテ中立條約ニ於テ既ニ相手國領土ノ不可

侵ヲ約ス蘇側ハ忠實見ニ同條約ヲ遵守スヘキヲ

日本ニ約束シ且 約束ヲ守行シアリ 蘇側

ハ日本(及滿洲)領土ノ防備ノ強弱ニ應ジテ中立條
 約(海軍重工ヲ加減スルモノニアラズ)滿洲國ニ日本兵一
 人ナシトモ蘇側ノ條約(海軍重工ノ約束ハ更北ニトヤシ
 他方蘇聯トシテ)極東蘇領ノ防備ヲ勤カスニ
 一々日本側ヨリ不可侵ノ約束ヲ取付ケザレバ安心
 也又程ノ小國ニハアラス

口「日本側ノ不可侵條約ノ要望カ滿蘇國境地
 帯ノ保安ヲ眼目トスルモノナラバ、國境劃定ガ不
 可侵條約ニ先行スヘキモノナリ」

ハ「(強)逸」ヲカヘテノ三國不可侵條約ノ(海軍重工)考案
 ハ(海軍重工)回ノ強蘇不可侵條約ノ(運命)ヲ思フトキ、蘇
 聯ニトリ強逸トノ不可侵條約ハ凡ソ「サンセン」ス
 ナルニトシテ申シ上ケルニ「トドム」(三十年一月末)

四 戦争終結問題——戦争ノ早急終結
 ハ總テノ國民ノ希望スルトコロナリ之ガ最捷徑ハ
 獨逸及獨逸占領下ニ在ル諸國ニ於テ國民ノ
 自由意思ニ基テ政府ヲ成立セシメ民意ニ應
 ジテ知四道セシムルニ在リ ナチ獨逸ノ存
 續スル限リヤ蘇聯ハ之ガ打倒ノ為全世田ノ
 自由愛好國民ト共ニ戦フベシトノ純心度ヲ
 繰返ス（二十年一月末）

298

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主月國大軍管内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰、外交戰、
思想戰、經濟戰、審判部

交付
時機
(想定)
(實曆)

昭和二十年四月
十一月十一日午後十一時十五分

發令者

統監部

戰審判部

第二動主月國情見第二

一、中等學校入學志望者、前年度より更に若干増加の趨勢あり

二、關し、並に處方、要する者、少ナカラス

三、政府、此等處置より、大學専門學校、地方分散疎開、
 更に成功せしむ、國民學校兒童、自發的分散、容易に進行ス
 べき能ハシムルニテ、通機關等、利用困難ニヨリ、學校教育、相當に
 難シクナラセ

三、學徒運動、自ニヨリ、動向實施が理想的に進行せし爲に、際々
 口中通半端な動向を奉仕する實施ニヨリ、徹底して、學子に短縮
 必要の如何なる面を現し、一、二、三、

899

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主月國大ホリケ内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
外交戰
審判部

發
令
者

統
監
部

戰
審
判
部

交付
時機
(想定)
(實曆)

昭和二十年 四月 日

十月十一日午後十一時二十分

第二期勅主月國情況 第二期追加其ノ一

四、軍需生産機構、急進ニ拡充セラレ概テ新期ノ成果ヲ
興テケル、アルモ最近主要生産會社ノ士氣低落、採算サ悪化
ヲ憂上慮シ價格ノ引上等政府ニ意見見テ吳申スルモノアリ
原因ニ主トシテ協力工場生産品ノ高騰ニ因ルモノ、如シ
大手株主方面ニ於テ、戦後ノ年比監ニ是タル爲人會社
部ノ蓄積増加ヲ希望シ居ルニ期待外レノ爲不安
ヲ表明スルモノアリ

總力戰研究所

480

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主丹國政府

報告又ハ
通知先

統 監 部、 武 力 戰 外 交 戰
思 想 戰 經 濟 戰 審 判 部

發 令 者

統

外 監 交 戰
戰 審 判 部

交 付 時 機

(想 定) 昭 和 卅 二 〇 年 四 月 日
(實 曆) 一 一 月 二 一 日 午 前 一 二 時 分

日 蘇 交 涉

獨 蘇 和 平

東 御 大 使 數 次 ニ 互 ル 交 涉 ノ 結 果 不 決 止 ヲ 得 タ ル

蘇 側 ノ 意 向 左 ノ 通

一 交 涉 相 手 方 ハ 民 主 義 義 二 基 々 獨 逸 政 府 付 タ ル

形 態 ヲ 取 ル ヲ 要 ス

二 獨 逸 占 領 下 ノ 諸 國 家 ハ 總 テ 國 民 ノ 自 由 意 思 〆 基

礎 ト ス ル 政 府 ヲ 組 織 セ シ ヲ 同 政 府 ラ シ テ 態 度 ヲ 決 定 セ

シ ム ベ シ 〆 之 ニ 依 リ 蘇 側 ハ コ ス カ ン ヂ ナ ヒ ヤ 三 國 〆 〆 ポ ー ラ ン ド 〆 〆 子

ツ コ ス ロ ヴ ア キ ア 〆 〆 コ ル マ ニ ア 〆 〆 フ ル ガ リ ア 〆 〆 ー ン ス ラ ヴ ァ イ ア 〆

總 力 戰 研 究 所

ラ自國勢力下ニ置キ、コバルト三國ヲ併合シ、コボリーラ
 ンド國境ハ疆ト分割當時ノ國境ヲ維持シ、ベッサラビ
 已併合ハ之ヲ維持スル底意ナルガ如シ、~~Germany~~ 尚又
 土耳其ト關係ハ甲疆逸ノ干渉外ニ在リ、現在ノ關係
 ヲ維持強化スルノ方針ナルカ如シ

三疆逸ハ其ノ人的資源及工業力ヲ以テ、蘇
 聯荒廢地ノ原狀恢復ヲ為スノ義務アリ

402

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

主月國大軍官の口頭

報告又ハ
通知先

統 監 部、 武 力 戰 審 判 部
思 想 戰 經 濟 戰 審 判 部

發 令 者

統 監 部

交 付 時 機
(想 定) 昭 和 十 二 〇 年 八 月 日
(實 曆) 十 月 十 一 日 午 後 前 一 三 時 五 〇 分

第一二期主月國情況の追加の口頭

八月末の三ノコクニ世界運命會議開催の口頭

追加の口頭

反軸國同盟宣言(要旨)

米國政府大英帝の府... 古學各國が各々其の應得相倚り

相扶け... 萬邦共榮の樂ヲ借ニスル... 吾等平和確立ノ根本要義ナルヲ

想ヒ連ニ吾等平和ヲ克服シ以テ吾等人類ノ福祉増進ニ努ムル

セントトク上衷心ヲ希望スルニ依リ右記條件ニ是等戰爭行爲ノ終結

ヲ提唱ス

(一) 歐洲諸國ニ向スル諸條件

404

第 期演習追加情況(課題) 其ノ

交 付 先
(演習官職)

青 國 大 本 營 内 閣

報 告 又 ハ
通 知 先

統 監 部、 武 力 戦 外 交 戦
思 想 戦 經 濟 戦 審 判 部

發 令 者

統 監

戰 審 判 部

交 付 時 機
(實 曆)

昭 和 十 二 〇 年 月 日
十 一 月 十 一 日 午 前 一 五 時 〇 分

第 二 期 主 月 國 情 況 第 二 追 加 其 三
六 十 一 年 十 二 月 末 迄 ノ 大 東 亞 戰 況
(一) ニ ー ギ ン ン 方 面

四月より五月軍の大攻勢ニ轉ジテニールグリーンルカ面ヲフインレハーフエニ
ニ上陸ヲ止メ因ニ爾後激戰半歲ヲニールグリーンルカ面ヲアスル海法
島嶼ニ五月軍ノマダニルカ東ノニールグリーンルカ赤軍依然ニ據ル
戰闘 續行ヤカリ
五月、赤軍ノ「アドミラルチー」進撃ノハ実行不能トナレリ
ニールグリーンルカ赤軍其地ヲ「トラウク」ニ對スル空襲ニハ屬シテ行ハレタ
ルモ「トラウク」ノ防衛ハ「ラボル」ニ程及ニ強敵ニシテ五月國艦隊ハ

總力戰研究所

依然トトラウクニ出入リツキアリ

(二) 南島島 四月初日青國聯合艦隊之ヲ奪回セルモ同島ノ破壊甚クシテ飛行場使用不能トナリ九月末復旧セリ

(三) 千毛ール方面 赤軍三月ヨリ引退シテ千毛ールニ對シ約四ヶ所ノ陸ヲ強行シ同島ノ大半ノ赤軍ニ占領スル所トナレリ

五月ヨリ B-29 ヲ以テ南方資源地帯ニ對シ爆撃ヲ開始セリ之ニ對シ青軍直ニ反撃ヲ作戦ヲ開始シタル爲ニ赤軍ノ沿海地帯爆撃ニ稍々下火トナリシモ千毛ール島ニ撤收セリ

(四) 印支方面 赤軍機械化兵團到着ヲ俟テ大反撃ヲ試シタルモ戦線ノ大ナル變化ナク十月青軍赤軍撃滅作戦ノ大半成功ノ原位置ニ帰セリ

(五) 南國艦隊 日本赤土艦隊

八月甲白E型空母群ノコーンヤル方面ニ出沒未能セルモ赤軍兵ノ都及之ヲ撃退セリ

3.

九月初旬に母二十隻ヲ出動スル大艦隊(空母二隻巡洋艦二隻) 駆逐艦二隻)ニ陸沖ニ出現シ 主目赤松 大湊 釜石 仙台ヲ爆撃 後東方ニ退去セリ

右ト同時機ニアリケーヤンヨリ千島列島ニ對スル空襲ヲ強ヒセリ

(六) 支那方面

四月を度軍ニ一大攻勢ニ對ジタルニ 大損害ヲ受ケ 撃退セラル
タリ 在支米空軍ニ活動ニ依リ 長江ノ交通一時杜絶セラル
以後概ニ復旧セリ

(七) 六月七月佛印海南中島及支那海船舶ニ對シテ

爆撃アリ

(終)

407

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青島大本營内閣

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰、外交戰
思想戰、經濟戰、審判部

交付時機
(想定) 昭和二十年八月 日
(實曆) 十一月十一日午前一時一〇分

發令者

統 監 部

戰 審 判 部

第二動主月國情況第二追加其ノ四

七、在界内連金會議ニ於テ決議及把軸國共同宣言ヲ

續リ國內ニ意見、對立ヲ見ントスルニ底流ヲ觀取セラル。

即チ自由主義的知識階級ニ共同宣言ヲ止月定セル

空氣ノ下ニ和平論アリ。右翼陣營ハ赤國ノ徹

底的腐敗聖戰完遂ヲ唱ヘテ共同宣言ヲ人至

面的ニ決定セントスルニ熱カナリ。又一部ニ該宣言ハ

ハ赤國ノ國際的相係ヲ論ジテアリ。

(署名)

五

(11)

408

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先 主丹國政府

報告又ハ 統監部、武力戰、外交戰、審判部、思想戰、經濟戰

重慶和平工作

蔣介石ノ意向トシテ汪院長ヨリノ通報左ノ通

中、支支ヨリノ即時撤兵又ハ北支ヨリノ撤兵ト言ハルル也

日本ト對英米戰爭ノ終結セサル限り日本ハ支那領土

内ニ於テ英米軍ト戦ハカルヲ得カルニ非スヤ日本ノ支

那撤兵ハ日支間ノミナラス日英米國ノ戰爭終止ニ依リ

初メテ可能ナリ即チ日支全面和平ハ即日英米和

平ヲラカルヲ得スコノ辺ニ付日本政府ノ確ニ於タル

方針ヲ持タスル人物(而モ日華新關係ニ對スル

理解アル人物)ヲ派遣セラレハ喜テ會談スベシ

交付時機 (想定) 昭和二十年五月 日

發令者 統 外交戰 監 部

總力戰研究所

409

第一期演習追加情況(課題) 其ノ

交付先
(演習官職)

青國政府

報告又ハ
通知先

統監部、武力戰
思想戰、經濟戰
外交戰
審判部

發令者

統

外交戰
監審判部

交付時機
(想定)

昭和二十一年六月

(實曆)

一月一日午後三時

日分

日蘇交渉

獨蘇交渉

帝國ノ見解ニ対スル日蘇側ノ最終的見解左ノ通

一 日蘇側ハソレトシテ總統ノ約束ニ一切信賴ヲ置道ヲ統

ハズ月總統ノ相手トスル限リ抑平ヲ考慮スル

余地ナシ

二月音心

三 獨ガ義務ヲ承認スルニ於テハ石油及食糧ノ對獨

供給(但シ蘇側ノ需要ヲ充シテ余額アル場合ニ限ル)ニ

日共義務ナシ

總力戰研究所